

協定書に署名し握手を交わす戸数市長(左)と菅沼学長

宮崎大、宮崎市と包括的連携協定を締結

宮崎大学(菅沼龍夫学長)と宮崎市(戸数 正市長)は、それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、教育・文化・医療・防災など幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に役立てることを目的に、包括的連携に関する協定を締結した。

このほど市役所本庁舎内で行われた調印式で、菅沼学長は「地方自治体との連携強化のため、これまで対話を深めてきた。市との連携を機に、大学が持つ知的財産を地域の中で発展させていきたい」、戸数市長は「宮崎大学との連携は悲願だった。さまざまな分野において学術的にご支援いただき、市民の安心や安全、所得向上につなげていきたい」と今後の展望を述べた。

連携協定に基づく具体的な取組については、今後検討を進めていくこととしている。

日清紡アドバンスカーボン工学講座

群馬大、寄附講座設置で開設キックオフ歓談会

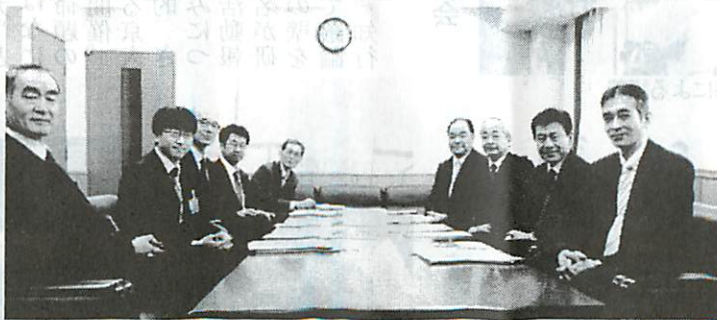
群馬大学では、大学院工学研究科に、四月一日から三年間の期間(総額三千万円)で、日清紡ホールディングス(株)の寄附講座として、「日清紡アドバンスカーボン工学講座」を設置している。四月二十二日には、同講座の開設キックオフ歓談会を群馬大桐生キャンパスで開催した。

同講座に関する研究を行っている尾崎純一教授は二十年前に電極触媒作用のあるカーボンを発見し、十年前に群馬大大学院工学研究科で燃料電池のカソード触媒としての性能があることを見出した。

この発見をもとに他の分野への応用を考え、水素エネルギー社会の基礎要素である、水素をつくる、ためる、つかうへの展開を図ってきた。平成十九年からは、日清紡ホールディングス(株)とカーボンアロイ触媒を燃料電池へ応用する共同研究を開始しており、さらなる性能向上の研究を進めている。

同講座は、当該触媒の実用化・商品化に向け、さらに研究を深化させ、カーボンアロイ触媒の作用機構解明、新規調製手法の開拓、さらに他の用途への

応用技術等に関する研究を行う。



右側：日清紡ホールディングス(株)(前から齊藤事業開発室チームリーダー、木島執行役員、鶴澤代表取締役社長、今城担当部長)左側：群馬大(前から、大澤TLO長、板橋工学研究科長、高田学長、尾崎工学研究科教授、大谷寄附講座教員)

歓談会では、鶴澤 静日清紡ホールディングス(株)代表取締役社長ほか関係者三名が群馬大を訪問。高田邦昭学長及び板橋英之工学研究科長から大学や工学部・工学研究科の概要について説明を受け、また、尾崎教授からは講座の事業概要に関する説明を受けた。

その後、同講座が設置されている総合研究棟の研究現場を視察。同社との共同開発品となるカーボンアロイ触媒の電子顕微鏡像を前に、研究担当の博士後期課程三年の神成尚克さんが研究の説明を行い、同研究室のアクティビティを示した。



左から鶴澤日清紡ホールディングス(株)代表取締役社長、高田群馬大学長